

千葉県立中央博物館みらい計画 原案



千葉県立中央博物館みらい計画について

はじめに:計画策定の趣旨

1. 計画策定の背景

- 1-1. 県立博物館の概要
- 1-2. 社会情勢の変化
- 1-3. 現状と課題
- 1-4. これからの県立博物館

2. これからの中央博物館

- 2-1. 中央博物館の概要
- 2-2. 目的とテーマ
- 2-3. 今後の運営指針
 - 2-3-1. 基本コンセプト
 - 2-3-2. 目指す姿
 - 2-3-3. 取組の方針
 - 2-3-4. 取組の方針に沿った事業展開

はじめに: 計画策定の趣旨

千葉県では「千葉県の博物館設置構想(昭和48年)」に基づき、資料保護と県民の文化的生活の向上を目的として、県内各地に地域の特性と専門館としての要素を持つ「地域博物館」とセンター機能を有する「中央博物館」と「美術館」を整備し、平成11年度までに県内各地に10館11施設を設置しました。その後、県内においても市町村立博物館の整備が進み、地域における県立博物館の役割が変化したことから、県立博物館の再編及び市町村移譲等を検討し、現在は、5館8施設を運営しています。

博物館を取り巻く社会情勢の変化を背景とし、博物館には、これまでの役割に加え、これからの時代に必要とされる機能をより強化していくことが求められるようになりました。

そこで、令和2年9月に千葉県教育委員会において「千葉県立博物館の今後の在り方」を策定し、千葉県立中央博物館の機能強化を図り、専門職員と博物館資料を集約する方針を定めました。令和5年3月には、この方針に沿って、千葉県立中央博物館の強化すべき機能を整理し、「千葉県立中央博物館機能強化実施方策」を策定しました。

これらを踏まえ、千葉県立中央博物館のリニューアルを見据えた基本計画として本計画を策定します。

1. 計画策定の背景

1-1. 千葉県立博物館の概要

(1) 千葉県の博物館設置構想(昭和48年3月策定)

以下の目的、方針を定め、平成11年度までに10館11施設を設置しました。

【設置目的】 県民の文化遺産ならびに地域社会への理解と県民意識の高揚を図ること

【整備方針】 県内数か所に地域の特性を活かした専門性を有する地域博物館（以下、地域館）を、総合センターとなる博物館（以下、センター館）として中央博物館と美術館を設置し、それらを相互に結ぶネットワーク網を形成する

(2) 「千葉県行政財改革行動計画」に基づいた

千葉県立博物館の再編（平成16年～平成21年）

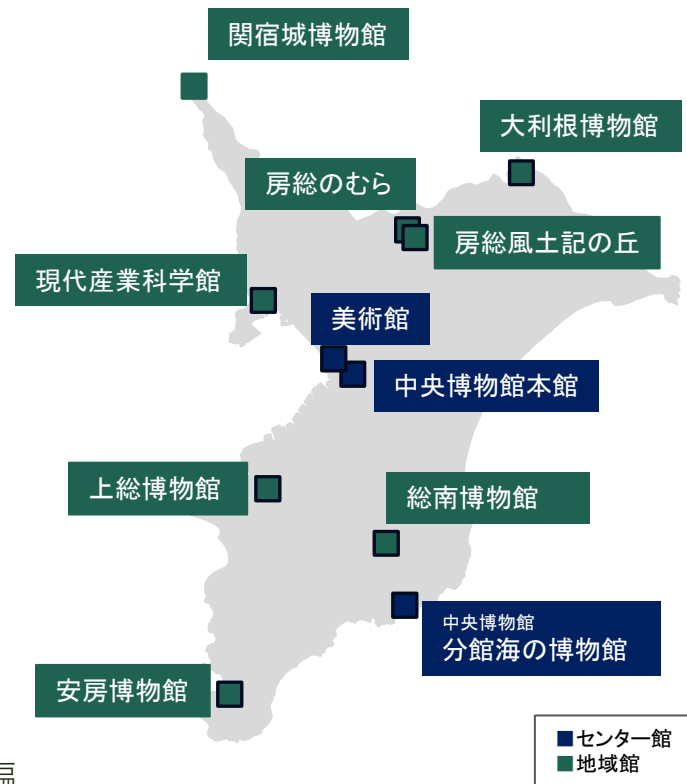
計画に基づき、以下のとおり再編等を行いました。

平成16年 「房総のむら」と「房総風土記の丘」を「房総のむら」に統合

平成18年 「大利根博物館」を「中央博物館大利根分館」に再編
「総南博物館」を「中央博物館大多喜城分館」に再編

平成20年 「上総博物館」を木更津市へ移譲

平成21年 「安房博物館」を館山市へ移譲



県立博物館設置状況(平成11年3月)

(3) 公の施設の見直し方針に基づく見直し(平成24年～)

●公の施設の見直し方針

平成24年3月：当面現状維持するが、一部の地域館については施設の在り方を検討する。

平成28年7月：分散型の施設配置を見直し、一部の地域館については移譲等の検討を行う。

●千葉県立博物館の今後の在り方（令和2年9月策定）

今後の県立博物館の役割や再整備の方針について以下のとおり整理しました。

【役割】 全県域を俯瞰した資料収集・保管、調査・研究、教育・普及等を行うとともに、県の魅力、県民の誇りとなるような文化・自然等の発信・紹介に努める。

【考え方】

中央博物館：知の創造拠点として、これまで以上に県内の博物館活動の拠点としての役割を果たせるよう、調査・学術研究、博物館資料救済、文化財の保存・活用、人材育成等の機能を強化する。創造した知見が県の内外、さらには海外にも発信され、誰もが千葉県の魅力に触れ、学び親しむために、何度も足を運びたい博物館を目指す。

- ・ **本館**：人文科学系の専門職員と博物館資料を集約するとともに、従来の自然系活動の優れた部分を活かし、学術研究機能を中心に収集・保管、展示機能を強化する。
- ・ **分館海の博物館**：研究機能等を発揮する上で海辺に設置する必要があるため、現状の運営を継続する。
- ・ **大利根分館**：早期に廃止の時期を決定するとともに、地元由来する博物館資料については、できる限り地元で有効活用されるよう協議を進める。
- ・ **大多喜城分館**：地元町における有効活用に向けた協議を進める。

房総のむら：指定管理管理者制度を導入し、一定の成果を上げていることから、現状の運営を維持する。

関宿城博物館：地元市における有効活用に向けた協議を進める。

現代産業科学館：継承すべき内容や活用方法等について協議していく。

●中央博物館大利根分館、大多喜城分館、現代産業科学館、関宿城博物館の今後（令和6年3月現在）

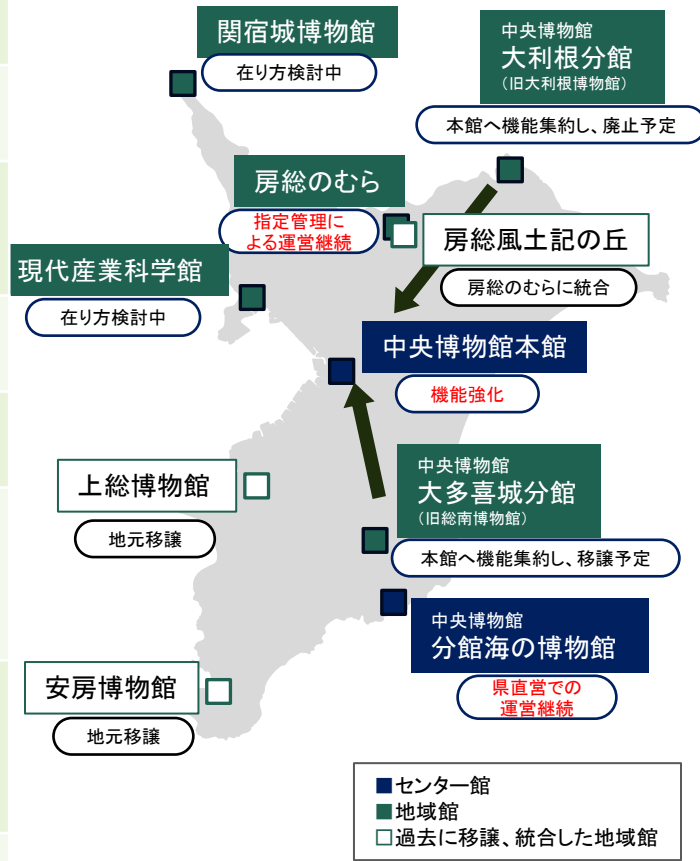
【大利根分館】 機能を中央博物館本館に集約し、廃止予定。

【大多喜城分館】 機能を中央博物館本館に集約し、大多喜町に移譲予定。

【現代産業科学館】 在り方を検討中

【関宿城博物館】 在り方を検討中

名称	テーマ	設置年度	現状と今後
□上総博物館	・くらしのなかの技術※1	昭和45年度	平成20年に木更津市へ移譲
□安房博物館	・房総の海と生活※1	昭和48年度	平成21年に館山市へ移譲
■房総のむら	・房総地方の伝統的な技術や生活様式の実演と体験※2	昭和61年度	引き続き指定管理で運営
□房総風土記の丘	・龍角寺古墳群と考古資料※2	昭和50年度	平成16年に房総のむらと統合
■中央博物館本館	・自然誌を中心とし、歴史も加えた総合博物館※1	平成元年度	人文系職員や資料を集約し、機能強化
■大多喜城分館 (旧: 総南博物館)	・房総の城と城下町※1	昭和50年度	平成18年に中央博物館分館に再編 今後は本館へ機能集約し、地元移譲予定
■大利根分館 (旧: 大利根博物館)	・利根川の自然と歴史※1 ・千葉県農業※1	昭和54年度	平成18年に中央博物館分館に再編、今後は本館へ機能集約し、廃止予定
■分館海の博物館	・房総の海の自然※1	平成11年度	引き続き県が運営
■現代産業科学館	・産業に応用された科学技術※1	平成6年度	地元自治体等と協議し、在り方を検討
■関宿城博物館	・河川とそれにかかわる産業※1 ・関宿藩と関宿※1	平成7年度	地元自治体等と協議し、在り方を検討



美術館は別途計画作成中

※1 各館要覧(平成16年)より引用

※2 千葉県立博物館今後の在り方(令和2年)より引用

1-2. 博物館をめぐる社会情勢の変化

「千葉県立博物館の今後の在り方」が策定された令和2年9月以降に博物館法の改正があったため、改めて社会情勢の変化について整理します。

(1) 社会環境の変化

【人口減少・少子高齢化】 学術の振興、地域文化の継承、文化財の保全に関わる担い手の減少

【科学技術の発展・価値観の多様化】 情報通信技術の普及やデジタル社会の進展等による生活の変化、
価値観やライフスタイルの多様化
インターネットの普及による情報漏洩等のリスクの増加

【グローバル化】 世界の国々の相互影響と依存度の高まり、
異なる文化や文明との接点の拡大

【気候変動や資源の大量消費】 地球環境の悪化、生物多様性の損失等をうけたSDGsの意識の高まり
自然災害の激甚化等による資料棄損等のリスクの増加

(2) 県立博物館を取り巻く環境の変化

【市町村立博物館の増加】 県内において、地域の歴史や文化を扱う市町村立館が増加し、地域
で県立館に求められる役割が市町村立館との連携や支援に変化

【学びの多様化】 生涯学習社会の進展、インターネット等の普及による情報と接する手
段の多様化と機会の増加

(3) 博物館法の改正(令和5年4月施行)

・博物館法の改正により社会教育法に加えて文化芸術基本法に基づくことが定義され、
従来の博物館事業（【1】収集・保管、【2】調査・研究、【3】展示・教育普及）に次の3項目が
努力義務として追加された

地域連携 他機関との連携や支援を行うこと

地域振興 地域における学術および文化の振興、文化観光等へ貢献すること

デジタル 博物館資料のデジタルアーカイブ化を強化すること

1-3. 現状と課題

1-2で再整理した社会情勢の変化を受け、県立博物館の現状と課題を改めて整理します。

従来の博物館事業

	現状	社会情勢の変化に伴う 新たなニーズ	課題
【1】 収集・保管	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然系資料を中心に約126万点を収集(R6年1月時点) ・約126万点のうち、約5万点は、地域館が人文系を中心に各館のテーマや各地域に沿って収集(R6年1月時点) ・研究、展示、イベント等で収蔵資料を活用 ・県民と協力しての収集活動 ・寄贈や寄託資料の受入れ <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に再編成・移譲した人文系博物館の成果が継承されていない ・全県的視点での人文系資料収集が不十分 ・収集した資料の整理作業が遅れている ・収集の成果が県民に十分に還元されていない ・適切な収蔵環境や標本作成環境が不十分 ・収容能力がほぼ上限に達しているが、新たなスペースが確保できていない 	<p>【人口減少・少子高齢化】</p> <ul style="list-style-type: none"> →・地域文化等の記録保存 ・地域(個人や学校等)で所有しきれなくなった資料の継承 <p>【人文系市町村立館の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> →・市町村立博物館と県立館との役割分担の明確化 <p>【気候変動や資源の大量消費】</p> <ul style="list-style-type: none"> →・千葉の環境等を記録する資料の収集 	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然系資料収集の継続と拡充 ・集約する地域館のテーマ等を引き継いだ資料収集の継続 ・収蔵資料を活用した活動の継続と拡充 ・県民と協力しての収集活動の継続と拡充 ・寄贈や寄託資料の受入れの継続と拡充 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集約する地域館の収蔵資料の継承 ・収集した資料の確実な整理と適切な保管 ・収集方針見直し、収集計画立案 ・収蔵資料のデジタル化等を確実に推進 ・収集成果を最大限有効活用し、県民へ還元 ・標本製作室や燻蒸設備等の関連施設の整備 ・収蔵スペースの確保

1-3. 現状と課題

従来の博物館事業

	現状	社会情勢の変化に伴う新たなニーズ	課題
【2】 調査研究	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉を対象にした研究を継続して実施 県域を俯瞰した視点で自然系の研究を実施 地域館では、各館のテーマおよび各地域に根差した活動を実施し、地元住民と共に多くの成果を蓄積 中央博物館では、県域を俯瞰した活動および科学の発展に寄与する活動を実施 中央博物館は、外部資金等を活用し、幅広いテーマの研究を実施(科学研究費助成金の研究機関に指定) 国内外の機関・研究者との共同研究等の実施 県民との共同研究等の実施 調査研究の成果は論文や学会等で発表し、科学の発展寄与するとともに、展示や教育普及事業等で県民に還元 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 長期的・組織的視点での研究計画が未策定 県域を俯瞰した視点での人文系の活動は不十分 研究成果の発信が十分とはいえない 国際的視点での組織的活動が不十分 多くの研究備品や設備、施設が未更新 	<p>【学びの多様化】 → 専門分野の追究と多様化</p> <p>【市町村立館の増加】 → 市町村立博物館と県立館との役割分担の明確化</p> <p>【科学技術の発展・価値観の多様化】 → 技術を取り入れ、多角的な視点で活動</p> <p>【気候変動や資源の大量消費】 → 千葉の環境等に関する調査</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉を対象とした地域研究の継続と拡充 県域を俯瞰した視点での自然系の活動の継続と拡充 集約される地域館のこれまでの活動の継続 職員の専門性を活かし、様々な分野のオリジナリティの高い展示や行事の実施に貢献し、科学発展にも寄与するような学術研究の継続 外部資金等を活用した研究活動の継続 国内外の多様な機関・研究者との共同研究の継続 県民との共同研究等の継続と拡充 県民への成果還元継続と拡充 <p><新たに取組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 長期的・組織的研究計画の策定、評価制度の見直し 県域を俯瞰した視点での人文系研究活動の実施・体制の確立 外部資金を含む研究資金の確保 県民に向けて研究成果をわかりやすく、迅速に還元 組織として国際的視点の活動を展開 長期的・組織的研究計画に沿った研究備品と設備、施設を更新

1-3. 現状と課題

従来の博物館事業

	現状	社会情勢の変化に伴う新たなニーズ	課題
【3】 展 示 ・ 教 育 普 及	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 各館それぞれの研究成果、資料収集成果を活かした幅広いテーマの企画展や行事を実施 職員の専門性を活かしたオリジナリティが高く、多分野にわたる展示や行事(年間100回以上)の実施 自然や歴史・文化の理解をより深めるため、フィールドを意識した活動(生態園の併設、フィールドミュージアム等)の展開 独自の学習キット作成や学習プログラムの実施 学校教育支援(授業での博物館利用等) <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示の抜本的な展示更新ができなかったため、全体的に内容が陳腐化 常設展示は、解説員が説明する前提で作られたため、内容が伝わりにくい(解説員は人員削減) 県民参画型の活動の縮小(中央博は友の会解散、ボランティアの高齢化等) 県立博物館に行っていない県民が多い 見やすい展示什器の整備や多言語化など多様化するニーズへの対応が不十分 	<p>【学びの多様化】</p> <p>【技術の発展・価値観の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> → 最新情報を取り入れ、多角的な視点で活動 ・県民参画型活動の充実 ・多様性に対応した取組みの拡充 <p>【グローバル化】</p> <ul style="list-style-type: none"> → 多様性に対応した取組みの拡充 ・国内外を意識した取組の実施 <p>【気候変動や自然資源の過剰利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> → ・SDGs視点の取組 <p>【人口減少・少子高齢化】</p> <ul style="list-style-type: none"> → 学校教育支援の充実 	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広いテーマの企画展や行事の継続と拡充 職員の専門性を活かした様々な分野のオリジナリティの高い展示や行事の継続と拡充 フィールドを意識した活動(生態園運営やフィールドミュージアム活動等)の継続 独自の学習キットや学習プログラムのアップデートとデジタル技術の進展に対応した活用促進 リモート学習等にも対応した学校教育支援の継続 <p><新たに取組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 更新しやすい展示環境を整備 最新情報を取り入れた定期的な展示更新 時事的話題や県民ニーズに応える展示を柔軟に実施 中央博物館は生態園を含めた常設展示を更新 あらゆる人々にとって、わかりやすく、楽しめる展示等の実現 県民参画型の活動の活性化 教員向けの事業や時事的話題に即応した情報提供 IT技術を活用するなど、情報発信方法の見直し

1-3. 現状と課題

法改正により追加された努力義務

	現状	社会情勢の変化に伴う 新たなニーズ	課題
地域連携	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県博物館資料救済ネットワークの拠点 被災した他館の資料救済を実施 巡回展等の実施 多様な主体(図書館や商業施設等)との連携事業の実施 千葉県博物館協会等によるネットワークの構築 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村立館との連携・支援体制は不十分 継続的な連携事業が展開できていない 	<p>【博物館法の改正】 【市町村立館の増加】 →県内ネットワークの強化</p> <p>【気候変動や資源の大量消費】 →災害時等の資料救済体制の確立</p> <p>【科学技術の発展・価値感の変化】 →これまでにない主体との連携</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県博物館資料救済ネットワークの拠点 被災した他館の資料救済を実施 巡回展等の実施 多様な主体との連携事業の継続 県内の博物館ネットワークの拡充 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村立博物館への支援体制の整備 施設整備を含めた災害時資料救済体制の確立 災害に備えた酒造資料デジタル情報の保全 新たな機関を含めた連携体制を確立するとともに、活動の成果を広く発信
文化観光・地域振興	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 調査研究により地域の文化等を発見 収集した地域資料の活用、展示や行事により地域の文化等を発信 フィールドを活用した行事等により地域の文化等に触れる機会の提供 立地する周辺地域やフィールドミュージアム活動地域と連携 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 県の資源を活用し、魅力を発信するフィールドミュージアムの活動について統制がとれていない 千葉の文化発信の拠点として、地域の活性化に貢献できていない 	<p>【博物館法の改正】 【人口減少】【少子高齢化】 →地域資源の活用・継承支援 ・文化発信の拠点としての役割</p> <p>【科学技術の発展・価値観の変化】 【グローバル化】 →文化発信の拠点としての役割 ・多様性に対応した取組みの拡充</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の文化等の調査研究の継続 地域の文化等を発信するため、資料収集、展示、行事等を実施 フィールドを活用した行事により地域の文化等を紹介 立地する周辺地域やフィールドミュージアム活動地域と連携 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドミュージアム活動の内容の見直し 連携・支援地域を全県に拡大し、文化観光・地域振興に貢献 誰もが楽しめる施設となり、千葉の文化観光へ貢献
デジタル化	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵資料データベースの作成・公開 デジタルコンテンツ(デジタルミュージアム、メールマガジンの配信)の作成 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館事業における最新技術を導入できていない デジタル技術を活用した県民への還元が不十分 	<p>【博物館法の改正】 【科学技術の発展・価値感の変化】 【グローバル化】 →デジタル技術による博物館事業の高度化 ・国内外への情報発信</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> 収蔵資料データベースの作成・公開を進め、資料のデジタルアーカイブ化を着実に進める デジタルコンテンツ(デジタルミュージアム、メールマガジンの配信等)の開発と拡充 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> 博物館事業におけるデジタル技術やIT技術の活用 あらゆる人が千葉の魅力に触れられる環境を確立

1-3. 現状と課題

運営・体制

	現状	社会情勢の変化に伴う 新たなニーズ	課題
運営・体制	<p><できたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な専門分野の職員が在籍し、多様なニーズに対応(国内有数の専門職員数) ・千葉県博物館資料救済ネットワークの拠点 <p><できなかったこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営理念の共有 ・専門職員の年齢構成等に偏りがある ・教育普及や資料保全等を専門とする職員の不足 ・事務系職員の不足 ・業務が「個人」に紐付きがち ・各職員の専門性を活かしきれていない ・過去に再編成・移譲した人文系博物館の機能が集約されていない ・施設の老朽化等によるサービスの低下 ・アメニティ設備の整備が不十分 ・常設展示の見直し、収蔵スペースの狭隘化、研究機器等が未更新 	<p>【学びの多様化】 →・ニーズに見合った人材の確保や育成</p> <p>【科学技術の発展・価値感の変化】 →・時代にあったサービス、設備の導入</p> <p>【博物館法の改正】 →・求められる役割の増加に対応した運営、整備</p>	<p><継続・拡充すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズに対応できる体制の継続拡充 ・千葉県内の博物館活動のネットワークの拠点 <p><新たに取り組むこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営理念の共有 ・専門性が高く、多様な人材育成を目的とした研修等の実施 ・外部人材の活用 ・運営方針を見直し、組織として業務を推進(長期計画策定, PDCAサイクル) ・適材適所な人事配置、迅速な業務推進 ・全分野のバランスのとれた組織体制 ・これまでの県立博物館の活動成果の継承 ・中央博物館本館のリニューアルを見据えた施設整備計画の策定

1-4. これからの県立博物館

社会情勢の変化や現状と課題を踏まえ、これからの県立博物館の目的・役割および方向性を次のとおり整理します。

●目的

「千葉県の博物館設置構想」(昭和48年)の趣旨を継承するとともに、社会情勢の変化に伴う新たなニーズを踏まえて以下のとおり改めます。

【策定当初】 県民の文化遺産ならびに地域社会への理解と県民意識の高揚を図る

【今 後】 本県の自然と歴史・文化ならびに地域社会への理解を深め、県民のアイデンティティや郷土意識を醸成するとともに、豊かな県民生活の実現に寄与する

●役割【千葉県立博物館の今後の在り方(令和2年9月)より引用。】

- ・千葉県の自然や歴史・文化を守り、伝え、新たな知見を創造し、情報を発信。
- ・この活動をとおして人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援。
- ・県の良さ・魅力を伝え、県民の郷土への愛着と誇りを育む。
- ・全県域を俯瞰した資料の収集、展示、教育普及、情報発信を進め、市町村立博物館等を支援。

●方向性

【大切にしたいこと】

- 県民とともに各種資料を収集保存、研究、活用し、千葉の文化活動の振興に寄与すること
- 県域を網羅した博物館ネットワークを確立し、全県民が博物館を活用できるようにすること
- 現場の自然や歴史・文化と強く結びついた活動(=フィールド活動)を大切にすること

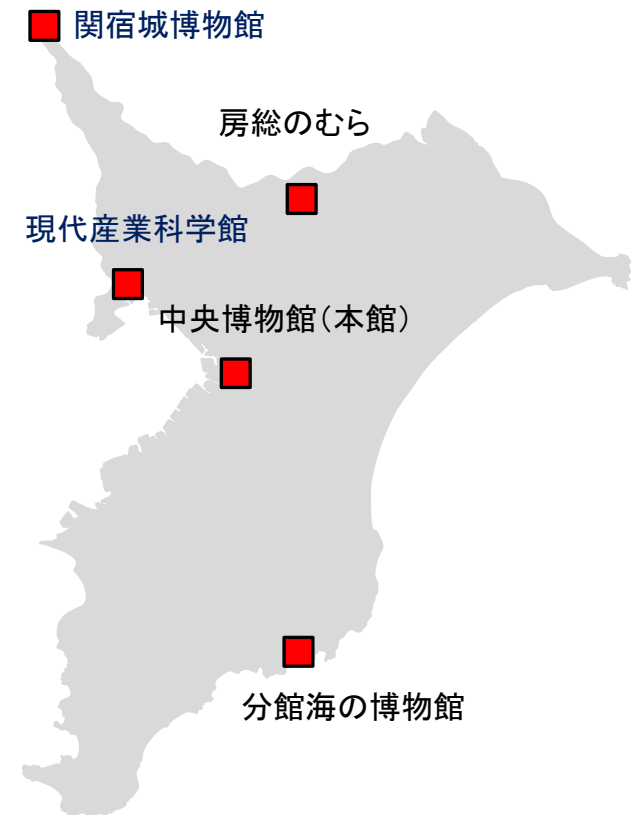
【博物館法改正への対応】

- 従来の博物館事業(【1】収集・保管、【2】調査・研究、【3】展示・教育普及)を根幹としつつ、博物館法の改正により努力義務となった次の3項目(地域連携、文化観光・地域振興、資料のデジタル化)を意識する視点とした活動を展開



1-4. これからの県立博物館

名称	これから
中央博物館(本館)	機能を強化し、リニューアルするため、基本計画を策定(第2章へ)。
分館海の博物館	海辺での運営を継続。
房総のむら	体験機会や展示を通じた歴史・文化の継承および地域の活性化に貢献。
現代産業科学館	地元自治体や関係機関と協議し、在り方検討。
関宿城博物館	地元自治体や関係機関と協議し、在り方検討。



2. これからの中央博物館

2-1. 中央博物館の概要

(1) 設置の経緯

以下の設置目的のもと、県立博物館の総合センターとして、平成元年に開館しました。

【設置目的】 県民の自然と歴史に関する知的需要にこたえ、生涯学習に貢献するとともに、科学の進歩に寄与する(中央博物館要覧(平成16年)より引用)

【テーマ(専門分野)】 自然と歴史

【特徴】 国内有数規模の多彩な専門性をもつ総合博物館である。野外博物館として生態園を併設し、現在は県内各地に3分館を有する。

【経緯】

- ・平成元年 本館開館
- ・平成11年 分館海の博物館開館
- ・平成15年 フィールド・ミュージアム活動開始
- ・平成18年 大利根博物館と総南博物館をそれぞれ大利根分館、大多喜城分館として再編

(2) 今後の中央博物館の運営方針

●千葉県立博物館の今後の在り方(令和2年9月策定)【P.6再掲】

- ・知の創造拠点として、これまで以上に県内の博物館活動の拠点としての役割を果たせるよう、調査・学術研究、博物館資料救済、文化財の保存・活用、人材育成等の機能を強化する。創造した知見が県の内外、さらには海外にも発信され、誰もが千葉県の魅力に触れ、学び親しむために、何度も足を運びたくなる博物館を目指す。
- ・本館に人文科学系の専門職員と博物館資料を集約するとともに、従来の自然系活動の優れた部分を活かし、学術研究機能を中心に収集・保管、展示機能を強化する。
- ・分館海の博物館は、研究機能等を発揮する上で海辺に設置する必要があるため、現状の運営を継続する。
- ・大利根分館と大多喜城分館は地元での利活用等を優先し、地元自治体や関係機関と協議を進める。

●千葉県立中央博物館機能強化実施方策(令和5年3月策定)

「千葉県立博物館の今後の在り方」に基づき、中央博物館の強化すべき機能を次の3つに整理しました。

【総合博物館としての高度化】 自然系、人文系共に強く、両者が連携した活動を展開

【地域連携ステーション】 県内博物館の拠点となり、地域連携や地域振興に貢献

【アーカイブセンター】 資料のデジタル化の促進や一元管理の実現

2-2. 目的とテーマ

第1章で整理した「これからの県立博物館」を踏まえ、中央博物館の目的と今後取り扱うテーマ（専門分野）を以下のとおり改めます。

目的

従来

県民の自然と歴史に関する知的需要にこたえ、生涯学習に貢献するとともに、科学の進歩に寄与する
※中央博物館要覧(平成16年)より



改定後

県内博物館の中心となり、県民の自然と歴史、文化に関する知的需要にこたえ、生涯学習及び地域づくりに貢献するとともに、科学の進歩・社会の発展に寄与する

テーマ(専門分野)

従来

自然と歴史

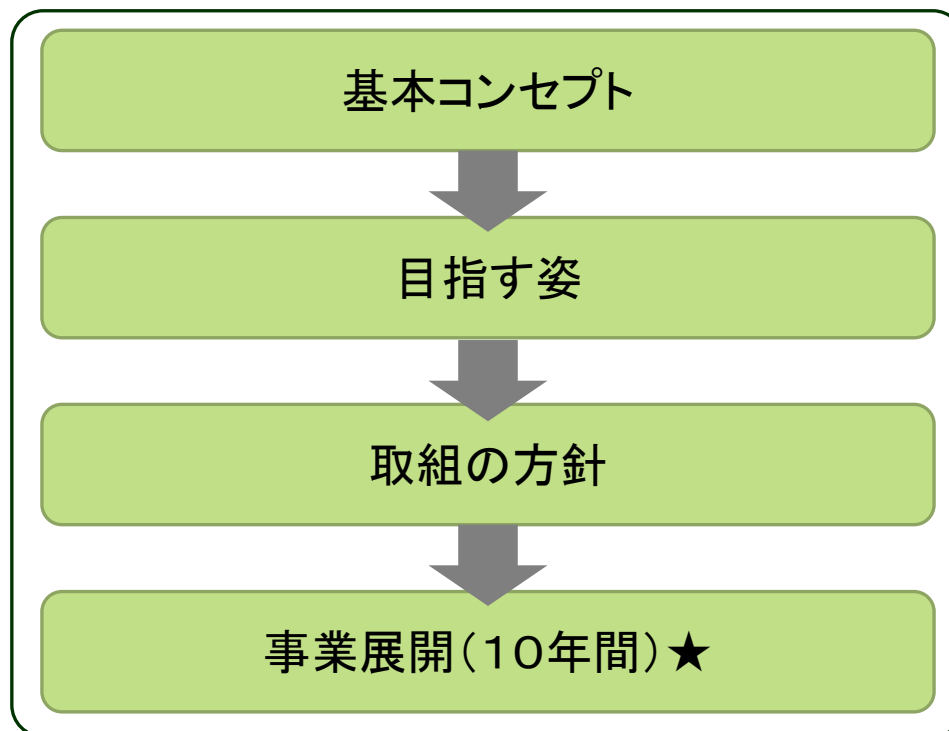


改定後

自然と歴史、文化

2-3. 今後の運営指針

これからの目的とテーマ（専門分野）を踏まえ、以下の構成で今後の運営指針を策定します。

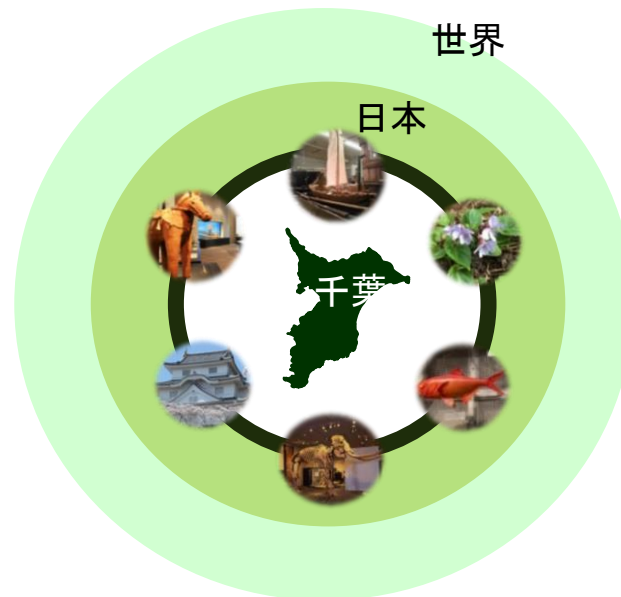


★目指す姿の実現に向けて、事業展開（10年間）、本計画を踏まえて策定する実施計画（5年間）について外部および内部を通じた評価を行うとともに、基本コンセプト等についても社会情勢の変化に対応できるよう柔軟に見直しを行っていきます。

2-3-1. 基本コンセプト

多彩な特徴をもつ 半島ちば の未来を切り拓く

川と海に縁どられ、かつては本州から隔てられた島状だったこともある千葉。古くから川と海を通じた他地域との交流があり、現在でも首都圏で世界に通じる海と空の窓口を持つ一方、房総半島を中心に豊かで多様な自然と独自の文化が形成され、グローバルとローカルの二面性をもちあわせています。多彩な特徴をもつ国内有数の半島ならではの千葉の未来を、自然と歴史、文化の視点から県民とともに拓き、科学の進歩・社会の発展にも寄与することで国内外の博物館を牽引する存在を目指します。



2-3-2. 目指す姿

千葉の自然と歴史、文化を 見つけ、伝え、残す博物館

- 県内博物館の中心となり、県民とともに千葉の自然と歴史、文化に関する資料を集め、県民の宝として未来へ継承するとともに、様々な研究を行うことで多彩な千葉の魅力を見つけてみます。
- 人々に千葉の魅力を伝え、県民が郷土愛や誇りを感じられるよう千葉の自然と歴史、文化についてわかりやすく発信します。
- 次世代の担い手を育成するとともに、千葉の自然と歴史、文化を県民とともに守っていきます。

世界に拓く博物館

- 人々とともに、自然と歴史、文化の面白さを見つけるため、多彩な活動を行い、その成果を国内外に発信します。
- 最先端の視点で活動し、科学と社会の発展に貢献するとともに国内外の博物館を牽引し、県民の誇りとなる博物館となります。
- 国際レベルの学術研究を行い、その成果を還元することで、県民が世界で活躍するための足がかりになります。

2-3-3.取組の方針

目指す姿を実現するため、2つの価値観を大切にしたいうえで、取組の方針を「つながり」の視点で5つに整理し、この方針をもとに、収集保管、調査研究、展示教育普及などの博物館活動を行っていきます。

大切にする価値観

資料やフィールド活動を大切に

- 常に当事者として意識を持ち、自ら現場へ足を運び、資料を集め、研究する
- 資料や現場を積極的に活用し、自然と歴史、文化を体感できる機会を提供する

中央博からつながりの輪を広げる

- デジタル技術の活用や様々な主体との連携等により、時間や場所に制限されず、繋がれる環境をつくる
- 多様な活動を展開するため、国内外の様々な資源や主体とつながりを大切にする

1.分野をつなげる

分野の追究と連携

5.未来へつなげる

千葉の豊かな未来を築く

【1】
収集
保管

【2】
調査
研究

【3】
展示
教育普及

資料・フィールド重視

2.地域をつなげる

地域の賑わいを創出

4.人をつなげる

共創の生まれる場へ

3.情報をつなげる

千葉の「知のコネクタ」へ


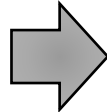

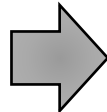

2-3-4.取組の方針に沿った今後の事業展開

【1】収集・保管

※連携、振興、デジタルについて特に意識する目標は、文章の末尾にマークを明示

取組の方針

今後の事業展開(10年間)

1	分野をつなげる ①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動 ②広域的な視点での活動	 ①自然科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、双方の研究に関連した資料をも収集・保管 ①現在収集されていない資料について、多分野の視点で情報を共有 連携 ②特定の分野や県域にとらわれず、県として保存すべき資料を収集 振興 ②科学の発展に寄与する全国レベル、国際レベルの資料の収集
2	地域をつなげる ①県域を俯瞰した活動 ②他機関との連携・支援 ③博物館と地域をつなげる	 ①県域を俯瞰した視点での資料収集・保管 振興 ②収蔵資料の貸出強化、非常時の文化財・博物館資料の救済の実施 連携 ②国内外機関との交流による収集強化 連携 デジタル ③県の施設の資料情報を一元管理するとともに、 振興 資料情報の集約による新たな地域資源を把握
3	情報をつなげる ①成果の迅速な公開・発信 ②千葉の魅力にふれる環境づくり ③資料情報の一元化	 ①デジタル化による文化資源情報の充実 デジタル ①外部システム（研究者間資料情報共有システム等）との連携 連携 デジタル ②収蔵資料の学術的・文化的価値の情報発信の充実 振興 デジタル ③県の施設の資料情報の収集・管理 連携 デジタル
4	人をつなげる ①県民参加・協働型の活動 ②県民ニーズへの対応 ③新たな協働を生む仕組み作り	 ①資料収集の県民参画の機会の提供、市民団体等との協力 連携 ②県民にとって財産となる資料の収集 振興 ②個人（団体）の所蔵資料の情報収集と受入体制の強化 連携 ③学術価値の高い資料の収集
5	未来へつなげる ①これまでの成果の活用・継承 ②長期的な視点での活動 ③人材育成	 ①収蔵資料の確実な管理、寄贈・寄託資料の受入れ 連携 デジタル ②中長期計画の整備、継続的な収集を踏まえた収蔵スペースの確保 ②コレクションポリシーに基づく資料収集 ③職員の資料管理等専門知識の習得、引継計画の立案

2-3-4.取組の方針に沿った今後の事業展開

【2】調査・研究

※連携、振興、デジタルについて特に意識する目標は、文章の末尾にマークを明示

取組の方針

今後の事業展開(10年間)

1	分野をつなげる ①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動 ②広域的な視点での活動	➔	①自然科学、人文科学及び両分野の連携による研究機能の強化 連携 ②専門領域、特定の地域にこだわらない広域的な研究 科学の発展に寄与する全国レベル、国際レベルの研究 連携 振興
2	地域をつなげる ①県域を俯瞰した活動 ②他機関との連携・支援 ③博物館と地域をつなげる	➔	①県域を俯瞰した視点での調査研究及び関連地域との比較研究等を実施するとともに、各地域の新たな魅力を創造 振興 ②国内外機関との連携による全国、国際レベルの研究推進 連携 ②、③共同研究等の実施
3	情報をつなげる ①成果の迅速な公開・発信 ②千葉の魅力にふれる環境づくり ③資料情報の一元化	➔	①研究成果の発信・還元機能の強化（報告書や論文のデジタル化等） デジタル ②レファレンスサービスの強化、文化資源情報の充実、発信 振興 デジタル ③資料情報の有用性を高める最新技術・事例の調査
4	人をつなげる ①県民参加・協働型の活動 ②県民ニーズへの対応 ③新たな協働を生む仕組み作り	➔	①県民参加・協働型の研究 連携 ②レファレンスサービスの強化 振興 デジタル ③県内外の研究機関等との協働を生む専門性の高い研究の実施 連携 ③共同研究（市町村立博物館職員等も参加可能な公募型等の研究）の実施 連携
5	未来へつなげる ①これまでの成果の活用・継承 ②長期的な視点での活動 ③人材育成	➔	①これまでの研究成果の整理・公開 振興 デジタル ②最先端の視点を踏まえた中長期計画の整備 ③職員の専門技術の向上、研修等への積極的な参加、引継計画の立案

2-3-4.取組の方針に沿った今後の事業展開

【3】展示・教育普及

※連携、振興、デジタルについて特に意識する目標は、文章の末尾にマークを明示

取組の方針

今後の事業展開(10年間)

1	分野をつなげる ①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動 ②広域的な視点での活動	①人文系展示の充実、充実した自然系の強みを活かした展示や講座の実施 ①両分野が連携した総合的視点の展示や講座の実施 連携 ①自然と歴史、文化を五感で体感できる活動の実施 連携 振興 (生態園やフィールドミュージアム等) ②専門領域を超えた広域的・国際的なテーマの展示や講座 連携 振興
2	地域をつなげる ①県域を俯瞰した活動 ②他機関との連携・支援 ③博物館と地域をつなげる	①県内各地の文化を紹介する展示や、県内各地に足を運ぶきっかけとなる講座の立案 振興 ②、③県内をはじめとする国内外での巡回展示、出前展示・行事の実施 連携 振興 ③他館と合同、共催の展示や行事の立案・実施 連携 振興
3	情報をつなげる ①成果の迅速な公開・発信 ②千葉の魅力にふれる環境づくり ③資料情報の一元化	①、②研究や資料収集の成果の情報を迅速に発信(デジタルアーカイブ等) デジタル ①、②誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実 デジタル 県内博物館ネットワークを活用した情報発信 連携 振興 ③県の施設の資料情報を誰もが気軽に利用できるような形で公開 連携 デジタル
4	人をつなげる ①県民参加・協働型の活動 ②県民ニーズへの対応 ③新たな協働を生む仕組み作り	①県民参加・協働型活動の活動の展開(フィールドミュージアム等) 連携 振興 ②時事的話題や県民ニーズに即応した展示の充実 振興 ②、③年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施 振興 ②、③専門性が高く、最新情報を取り入れた展示や講座等の実施 連携 振興 ③国内外の人材や施設を繋ぐ活動(学芸員と県民、県民同士等)
5	未来へつなげる ①これまでの成果の活用・継承 ②長期的な視点での活動 ③人材育成	①収蔵資料や研究成果を活用した展示や行事、各地域の魅力の発信 振興 ②中長期計画の整備 ②③職員の普及・展示技術の習得と共有、未来を考えるきっかけになる事業の実施 ③次世代の学びに応える活動、地域のコアとなる人材育成支援 連携 振興 ③新たな人材育成とスキルアップ(学芸員養成等)

2-3-4.取組の方針に沿った今後の事業展開

運営・体制

※連携、振興、デジタルについて特に意識する目標は、文章の末尾にマークを明示

取組の方針

今後の事業展開(10年間)

1	分野をつなげる ①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動 ②広域的な視点での活動	➔	①様々な専門分野に横断的に対応できるような体制作り ②大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA連携（隣接予定の複合施設との連携）体制の確立 連携 振興 ②博物館事業のDX化の推進 デジタル
2	地域をつなげる ①県域を俯瞰した活動 ②他機関との連携・支援 ③博物館と地域をつなげる	➔	①県内博物館のネットワークの拠点となる 連携 振興 ②大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA連携（隣接予定の複合施設との連携）体制の確立【再掲】 連携 振興 ③複数機関との同時連携等 連携 ③学校や社会教育施設との連携、県民や企業等との協力体制の構築 連携
3	情報をつなげる ①成果の迅速な公開・発信 ②千葉の魅力にふれる環境づくり ③資料情報の一元化	➔	①文化資源情報充実、デジタルアーカイブの強化 デジタル ②博物館と県民等がつながりやすい環境づくり 連携 振興 デジタル （情報共有サービスの向上、オンラインツールの活用等） ③県内の他機関との情報共有のための連携体制の構築 連携
4	人をつなげる ①県民参加・協働型の活動 ②県民ニーズへの対応 ③新たな協働を生む仕組み作り	➔	①県民からの情報提供ツールの開発 デジタル ①、②、③ボランティアや市民研究員制度等の拡充、市民団体等との連携 連携 ②、③誰もが利用できるアクセシビリティの向上（情報共有サービス向上等） デジタル ③国際交流も視野にいれた連携体制の整備 連携
5	未来へつなげる ①これまでの成果の活用・継承 ②長期的な視点での活動 ③人材育成	➔	①施設の整備（老朽化した施設の改修、防災・防虫機能の高い収蔵庫等の充実等） ②非常時の文化財・博物館資料の救済体制の構築 連携 ②社会情勢の変化に対応できる展示設備（可変性が高く、柔軟性のある設備への改修等） ③多様な職員育成を含む持続的な運営体制の確立、市町村立館等への支援 連携 ③新たな人材育成とスキルアップ（学芸員養成等）